



(第39号)

発行所 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
県立千葉高等学校同窓会
印刷所 千葉市中央区都町1-13-16
TEL. 043-233-9671
有限会社 プリントピア

千葉葛城会の結成を機に 同窓会組織の発展的改組を



同窓会会長 霜 礼次郎
(昭和三十一年卒)

創立百三十周年を機に、わが千葉高は、新たに千葉中学校を併設することになり、千葉県はもとより、日本でも注目される母校となりました。

しかし、千葉県の財政は逼迫しており、校舎ができぬ間に発車したという、最も危惧される状況下にあります。

その折に、多くの先輩方の努力で署名を集め、県議会に請願をした成果として、昨年

末、旧軟式テニスコートに、体育館と校舎が一体となった中学校校舎が建設を開始いたしました。

同窓会長として、歴代の校長先生のご努力に、心より感謝している次第です。

さて、昨年六月、「千葉葛城会」の結成式並びに設立総会が百四十余名の参加を得て開催されました。

私は、同窓会が今後目的達成のため、一つの手段として、

同窓会支部の充実発展を期す事が、不可欠と考えています。だが、長年懸案となつている、母校の存在する千葉市に、支部が結成されていらない事に鑑み、「千葉葛城会」の結成を、果たさなければならぬと考えておりました。

この立ち上げによって県下全域に支部が置かれたわけですが、中学校の設置により、創立当初の千葉中学校時代が再現され、学校全体が若返り、人数的にも増え拡大して行きます。同窓会の一層の充実と発展につながるためにも、現組織の見直しをする必要があると考え、今年度、組織検討委員会を設置し、同窓会組織を発展的改組をしてまいりたいと思ひます。

一昨年から準備をしてまいりました、百三十周年版同窓会名簿も各年度の編集委員の方々のご協力で、一年遅れとなりましたが、漸く三月初旬

に皆さまのお手元に届けられる様になります。

名簿販売については、目標二千五百冊が達成できるよう、同窓各位のご協力を切にお願い致します。なお、発行にあたって、名簿編集委員各位並びに事務局のご努力に深く感謝申し上げます。

更に郵便物の追加発送並びに受入れ・整理などを母校の事務長を始め事務職員のご協力に深謝したいと存じます。

名簿と同時に皆さまにお願い致しました、教育環境整備への募金は、一月十五日現在四五〇万円をご寄付頂いております。ご協力頂いた先輩諸氏に深く感謝を申し上げますと共に学校のご要望をお聞きしながら使わせて頂きたいと存じます。

わが母校の発展のためにも同窓生諸氏の、今後とも一層のご理解とご協力をお願いする次第であります。



何のための中高一貫教育か

校長 江崎 俊夫

日頃から本校の教育活動に
対する御理解と御協力をいた
だき感謝申し上げます。また、
各地域の同窓会の総会にお招
きいただいたことにつきまして、
改めて御礼申し上げます。

皆様からの御支援の賜であ
ります中学校新校舎建設は、
昨年十一月末着工し、小体
育館と教室の一体型、延べ面
積約二千㎡で、今年の九月竣
工の予定となっております。

昨年度は一三〇周年という
節目に中高一貫が開始され、
また今年度は同窓会の千葉支
部にあたる『千葉葛城会』の発
足などがあり、記念すべき出
来事が連続しました。同窓生
の皆様にとっては今後の本校

や同窓会の動きに目が離せな
い状況にあると思います。

さて、学校の状況ですが、
マスコミの影響もあるので
でしょうか、全国からの視察が
大変多くなってきました。他
都府県の教育委員会や学校関
係者、さらには県議会議員も
訪問するなど、その対応に追
われております。

こうした来校者の多くの関
心事は、本校の中高一貫教育
の基本理念は何か？どんな教
育課程でどんな授業を展開し
ているのか？などのソフト面
です。特に中学校では、自分
で課題を見つけ探求し発表す
る「総合学習」を中心とした、
高校の授業内容を先取りしな

い繰り返し授業。また高校で
は、大学受験に特化せず、深い
教養を身に付けさせる授業など
が新鮮に感じられるようです。

公立の中高一貫校は、現在全
国に約一七〇校設置され、年々
増加しています。しかし、学校
の中には、一部の私立と同様に
「有名大学入合格」を目的として先
取り学習を行い、高校三年時に
受験体制をとるところが少なく
ありません。中高一貫教育を有
名大学の合格者増につなげたい
という強い意図を感じます。

私はこうした動きには批判的
な考えを持っています。有名大
学に合格させるための指導より
も、大学を卒業した後の道をど
うするか考えさせる指導が先
で、むしろ後者の方がずっと重
い。もちろん中高一貫の教育内
容にはいろいろな考え方があつ
て良いと思いますが、公立が私
立のまねをする必要はありません。
これまで多くの公立中学校・
高校が上げてきた教育的成果を
なぜ生かそうとしないのか疑問

に思います。

こうした動きの背景の一つ
に、行き過ぎた成果主義の風潮
があります。公立学校も例外で
はなく、目先の結果が優先さ
れ、中高一貫を大学進学への手
段として利用する。公立学校の
責務から大きく踏み外している
と言わざるを得ません。大学入
試はあくまで途中結果に過ぎま
せん。

あえて言えば、もしも大学進
学を主眼とするならば、わざわざ
莫大な予算をかけて中高一貫
にする必要はありません。予備
校や塾と提携した方がずっと効
果的であると私は思います。

本校の大学進学を心配するこ
とはありません。今実践してい
る「自主・自律」「重厚な教養主
義」による「考えさせる教育」を
徹底すれば、大学入試は恐るに
足らずと申し上げたい。

私は、心身ともに伸び盛りの
時期に系統的な教育ができる中
高一貫は、それなりに意味のある
ものと思っています。これま

で旧制千葉中学校、千葉高校が大事にしてきた教育の理念、積み上げてきた実績を生かし、本校ならではの教育をより発展させるこそが、本校の中高一貫を成功に導いてくれるものと確信します。そして、本校を卒業した生徒たちは、必ずや一人ひとりが本校で培った力を十二

昼夜一体となつて

同窓会副会長 永田忠以

(昭和三十七年卒)

定時制が閉課されて、生浜高校へ転校した生徒も、平成二十二年三月にて、卒業いたしました。「葛の花会」は、定時制の入学生が無くとも、卒業生が集う限り、今後も続けて参ります。然し、入学生がいなければ必然の結果が出て参ります。そこで、最近では千葉高同窓会にて、三十六年、三十七年あたりの定時制卒業生が運営にかかわり、その役割の一端を担うよ

分に発揮しながら、千葉で日本でさらに世界で社会に貢献してくれるものと期待しています。終わりに、今後とも全国一の公立中高一貫校を目指し、教職員一丸となつて努力してまいりますので、よろしく御支援のほどお願い申し上げます。

うになりました。参加者も少しずつですが増えてきています。昼夜ともども卒業生が一体となつて、盛大に同窓会を今まで以上に催すことが出来たら幸と存じます。また東京葛城会及び船橋葛城会につづいて益々同窓会を発展させていくために、千葉葛城会が霜同窓会長の肝いりにて発足いたしました。他の会

ともども、より良い会にしたいものです。最後に生浜校へ転校した生徒も千葉高へ在校していた思い出とともに千葉高同窓会へお迎えしたいと思います。又この機会がありましたら!!

ホームページを ご利用ください

同窓会事務局長 阿佐幸雄

(昭和三十五年卒)

平成十九年九月より準備をしてみました、「百三十周年版同窓会名簿」ですが、ようやく二月末に発行予定となりました。名簿の発行に当つて、各年度の編集委員のご協力で名簿の洗い直しをお願いし、住所判明の会員二万三千余名に通知をしましたが、残念ながら二千六百名余り宛先不明・転居先不明などの戻りがありました。

一昨年春作成した同窓会のホームページから、国内はもとより海外に在住している先輩諸氏からも住所登録があります。住所の登録の他、同窓会総会への参加登録などもホームページから出来ますので、ご利用下さるようお願いいたします。

なお、個人情報保護の問題もあり、今回が最後の名簿発行となると思ひます。同窓会のみならず、個人情報保護の問題も

なが力を合わせて一生懸命作成した名簿です。是非とも、お買上のほどお願い致します。

名簿価格 @九、〇〇〇円

(送料・消費税込み)

*一、八〇〇冊の限定販売

成人を祝う同期会を開催

平成二十年に卒業した第60期生の成人を祝う「成人記念卒業後第一回同期会」を成人式の前々日一月九日、県庁脇のホテルプラザ菜の花ホテルプラザ菜の花で同窓会主催で開催しました。

生徒百九十七名、恩師九名の参加を頂いて盛大に開催できました。各クラスの同窓会委員の協力も頂け、同期会への興味や協力体制を作る上でも大変に有意義なことでした。

成人前の方もいるので、ソフトドリンクだけ、会場内は禁煙とさせて頂きましたが、みんな充分に満足して頂けたことと思ひます。来年は61期生が一月八日に同じ会場で行ないます。

学 年 短 信

●昭和十一年卒

佐瀬喜一

私事になるが、あかねさす暗い夜空六時頃目を覚ます毎日、車椅子(介護三)で目を覚ます、八十七になる老妻の朝食をすする。ヘルパーは一日二時間の手つだい。私事になるが長男は歯科医院の後をついでくれてたすかっている。思えば千葉高同志の友は皆去りさびしい限りである。しかし清らかな井戸水と森林のきれいな空気に感謝する。

●昭和十三年卒

鈴木尚純

いざや会の幹事を原田君に委嘱して四、五年になりますが、ここ二年間同窓会は実施していない。これは原田君の身体の不都合が思わしくないと連絡を受け、この儘閉会したらとの意見もあった。小生も腎臓の機能低下、血液が薄く、血圧も低く、疲れ易く、石原先生の(同級生)御世話になつて居る状況である。又先生の世話になつて居る人も数人いる。会の継続を希望する者もいると思われるので、四、五人でも年に二回程度食事会形式で会を続けたいと思つて居るが、他の同窓生の了解を得なければならぬ。近しい中に結論を出したいと思つて居る。

●昭和二十年五卒(新葉会)

伊藤昭一郎

平成二十一年秋、これが最後かもと思いつつ同窓会を開催した。敗戦直前に空襲と勤労動員の間をぬつて卒業した我々には卒業写真も名簿も無かったが、松崎一康君の丹念な調査で判明した同窓生二六七名、今回案内状発送できた者一一五名、出席者は三十名だった。なつかしい旧友達と顔を合せると、あの千

葉中の頃が、なんとあざやかに甦ってくる事だろう。亡き恩師の方々、亡友達と過したあの教室。軍事教練の為に三八式歩兵銃、村田銃、そして軽機関銃、てき弾筒まであったあのうす暗い武器庫。運動場上すれすれにまで急降下した米機の機銃掃射弾によるおそろしい土けむりの連なり！思い出せない母校よ。益々の発展を願っています。

●昭和二十年四卒(禄寿会)

山川喜弘

“私の原点は千葉中”

「本八日未明、帝国陸海軍は米英両国と戦争状態に入れり」昭和十六年十二月八日、私は千葉中の脱靴場で臨時ニュースを聞いた。その二日前に陸軍幼年学校の入学試験を受けていた。私は千葉中一年生、担任の恩師は国文の鏡淵先生。修学旅行で撮った漢文の和田先生達を中央にした同級生の茶目気たっぷりでおかぶかの制帽で童顔の写真を見ながら本稿を認めてい

る。先生は略式の戦闘帽、巻脚半で戦時色一色である。私は小学生的の頃マンガの「のらくろ」(黒色の野良犬が軍隊に入る物語、少年倶楽部、田河水泡著)を読みふけていた。

このように幼稚な私を育ててくれた坂の上の雲たる千葉中は、あらゆる点で私の原点であり、人生の抛り所である。同級生とは幼年学校入校とともに別れしたが(この六月七日の同期会で、六十七年ぶりに再会をはたした)

千葉中で学んだ「世の中のためにの精神」は、繰返すが私の原点であり平明なモットーである。これを基調に残された人生を明るく、リズム良く、生きて行きたい。

●昭和二十二年卒

斎藤喜久三

傘寿記念母校訪問同期会

21年6月6日67年前の入学当時を想い出し乍ら母校の坂を五



年生の早川先生に引率された一年生さながらの40名は元気よく登って行きました(当時は駆け足で上がらせられたこともあり)

孫の様な中学生に会いタイムスリップして5年生の気分が出ましたのは不思議です。過去に50才記念、入学50周年、卒業50周年と今回の傘寿記念と四回目の訪問に校長先生はじめ職員の方達のご配慮で心から歓待して



千葉高美術館を訪問

頂きました。諸兄も30年前からの念願が叶い大満足でした。会議室での校長先生の母校近況を伺い、懐かしの記念講堂での記念撮影、中学一年生の校舎廊下一杯の作品に校長先生の説明で我々の一年生とは大違いの驚き、恒例は同級の伊藤名誉美術館長の案内で全国に誇る充実した内容に見張るものがありました。

午後5時より「ほてい家」で祝賀会を開会。この節目の同期会に参加出来なかつた故人に黙祷、全員80才とは思えない元気一杯で校歌、応援歌の大合唱は「我が生涯の最良の日」の一つに



千葉中生の作品を皆で参観(校長先生の説明を聞く)

加えて価値ある一日でした。満願達成で今後の同期会を如何に運営していくかの一致した答えは出来る限り続けようとなり、「最後の同期会のリーダーシップとなれ」なんて相変わらずの気焰を挙げる意気盛んな代61・62期生です。これから皆と健康を祝し乍らの再会が続けられるのが楽しみです。

同期会の牽引力でもあったゴルフ葛城会は昭和54年に50名で発足し傘寿(80歳)に丁度百回になる様、年四回開催の予定で目標の本年12月11日百回を達成し、その健康振りをアピール。又、北海道教育大学の長谷川

工君は地域の社会、文化に貢献の功により瑞宝中綬章を受けた。

同君制作の森繁久彌の実物大オホーツクの老人(現地建立)は有名である。

●昭和二十五年卒

矢島 肇

同期会員のニュースは、主として九人のクラス幹事の報告で事務局に入って来る。最近は計報そして体調不良がその全んどである。思えば皆んな喜寿を越えた後期高齢者なのであるから至極当然のことであろう。しかし、そんな中で思わぬ朗報も飛び込んで来る様になった。「大臣になった」を始め各界での活躍ぶりは驚きと喜びである。これらは皆んな同期のご子息に関わる明るいニュースである。気をつけて見ていると、千葉高同窓生の活躍は勿論、そのご子女の活躍にも数多く出会う。伝統校のDNAを感じながら嬉しくも誇らしく思う。時代は確実に

大きく移り変わっている事を実感する。我が同期会の近況報告である。

●昭和二十七年卒(二七会)

中村作二

我々千葉高二七会の面々は、昨年三月で全員「後期高齢者」になりました。(このネーミングは何とかなりませんか)従って今年は満年齢か数え年で喜寿を迎えることになりました。

二七会は隔年に開催することにして、今年六月頃に行う予定をしています。毎回百名は集っていますが、今年も大勢参加してくれるように願っています。

また昭和四十二年から始めた葛城二七会(ゴルフ会)は、百二十三回になっています。

●昭和二十九年卒「福の会」

永井 豊

「福の会」は、毎年いろいろな催しを行って親睦を深めており

ます。

六月の総会懇談会は千葉京成ホテルミラマールで開催されました。新しい企画として同ホテル・ラウンジ専属のジャズピアノ・スト・大神安紀子さんに出演を依頼、リクエストした懐かしの歌数十曲の演奏と歌をBGMに皆なごやかでムーディーな昼食を楽しみました。恩師の出席は早川先生お一人、相変わらずの元気さで中高一貫校・千葉高の現状についてスピーチ、五十名の出席者は皆先生の元氣と母校の将来の夢を背負って爽やかな家路につきましました。

次に、恒例のバス旅行を計画し、九月十三、十四日に新潟県は岩室温泉で楽しいひと時を過ごしました。しかし、こんどはわれらが兄貴分(?)早川先生のご都合がつかず、見切り発車となったのは残念でした。初日は、三間四方の吊り天井に、透かし彫りの大彫刻で有名な西福寺開山堂と北方文化博物館を見学しました。旅館は由緒ある「ほてる大橋館の湯」で、ゆったり温泉

に浸って疲れをとり、美味な料理と酒でくつろぎ、カラオケの贅沢三昧でした。二日目は弥彦神社を参拝し、燕市で洋食器の加工工程を見学した後、新潟のアメ横といわれている寺泊漁港を回ってきました。帰りの車中では、早くも来年の旅行先をどうするかなどの話をしながら

も、いつしか睡魔に襲われ、静かな時間が過ぎていきました。この間二回のゴルフコンペが開催され各回十余名の少人数ながら、和氣藹々と楽しみました。忘年会は、十二月二十日の日曜日、これまた恒例どうり東京在住者が企画した錦糸町の東武ホテルでの昼食会には四十六名が出席しました。皆大いに飲み・食べ・しゃべって三時間、そのあと二次会に二十名以上が残って夕刻まで続き、さすがにしゃべり疲れたけれど、お互い翌年の再会を誓って師走の喧噪に飲み込まれて行きました。

●昭和三十三年卒

増田 裕

我々の同期会は、地元世話好きの幹事役が若干名いるお陰で、二、三年に一度位の割合で比較的マメに千葉市内で開催してきている。最近の二回について述べてみる。

平成二十年十一月十五日に「千葉高卒業五十周年記念同期会。」と銘打って京葉銀行文化プラザに於いて開催した。稲葉正、早川俊一、畑山明の三名の恩師の先生および霜礼次郎同窓会会長もご出席いただき、総勢九十六名が集まり賑やかに旧交を温めることが出来た。

平成二十一年十一月十四日に、七十歳(古稀)を迎えたのを機会に開催した。二年連続であったにも拘わらず六十七名も集まった。今回は恩師も招かず進行プログラムも簡単であったが、互いの話が余りにも尽きないので二次会の場所へ移動し秋の夜長を充分楽しんだ。多くの同期生は定年を迎えていたが現役で頑張っている人もいて、

夫々、元氣一杯であった。次回
の開催も「早目に」という声もあ
り幹事役はまた忙しくなりそう
である。

「みささ会」は同期会有志によ
るゴルフ愛好者の集まりであ
る。平成九年三月九日に第一回
(大多喜G・C)で催してから平
成二十一年九月十六日に第十四
回(季美の森G・C)まで実施し
ている。平成二十二年三月十日
には第十五回(ヌーベルG・C)
を予定しているが、この会の続
いているのも常任幹事役の石塚
眞君のお陰である。年令と共に
飛ばなくなり往年のシングルプ
レーヤーも百叩きの有様である
がお互いに慰め合って満悦して
いる。

●昭和三十五年卒(珊瑚会)

高橋 紘躬

前号で中村重春君が珊瑚会の
ユニークな同好会「探美会」の紹
介をさせて戴きましたが、会に
は今一つ活発な「ゴルフ同好会」
が存在します。

毎年一・二回程コンペを開催
していますが、会発足当初は四・
五組程度のコンペも、リタイヤ
組が増えるにつれ活発になり最
近は七・八組と盛況です。

會ではシングルプレーヤー
四・五名、クラブチャンピオン
経験者数名を擁するレベルの高
い同好会でしたが、さすがに心
身とスコアの劣化は一致する様
で近頃は昔の快打・快スコアを
懐古しながらのラウンドです。
今年も九月十八日に新千葉C
で七組二十七名でスポーツの
秋を満喫した次第です。

●昭和三十七年卒

駒井 隆子
朝生 邦夫

今年も三七会の活動は、多方
面に活発に展開されました。

「三七で歩く会」「三七山の会」
は、東海道を歩く企画や冬場の
房州山歩き、シーズンの甲斐(大
菩薩)信濃(八ヶ岳・蓼科山)な
どの登山を楽しみました。

「三七ゴルフ会」は春と秋のコ

ンペ中心に多数の参加を得てい
ます。「三七旅行の会」は、夏に
瀬戸内地方に二泊三日の「熟年
修学旅行」を実施しました。

サークル活動では「三七囲碁
の会」と「三七卓球の会」とが、
月に一・二回コミュニティセン
ターや会員宅で若さを保つため
に頭を鍛え、体を動かしていま
す。秋には合宿などで交流して
います。「三七ヨットの会」は、
航行を楽しみました。

「三七映画を観る会」は、名画
を何回か鑑賞し、懇話しました。
お互いの連絡はMLを通じて
ネットを構築しています。年末
の〇九年忘年会で今年の活動の
まとめをしました。来年度に向
けて卒業五十周年事業、名簿の
発行等を企画しています。

「稲葉正先生米寿の会へ向けて
の参加と出版準備ご協力のお願
い」

私たちは2010年8月26日
に稲葉先生が米寿を迎えられる
のを機に、この日の前後(8月
22日頃)先生を囲んで米寿をお
祝いする会を開きたいと考えて

います。

又、それを機に、先生の文章
や論文をまとめ、卒業生の稲葉
先生に関する思いなども集めて
出版し、当日配布したいと思っ
ています。

これらを行うにあたり、会の
企画、出席者の確認、実行委
員(会)の選任、出版費用の捻
出、資料の選定や、テキスト
化、等の作業や出版に関する交
渉等々、いろいろみなさまにご
協力頂ければと考えています。
ご協力いただける場合はメール
inaba20100826@yic.or.jpへ
お名前、郵便番号、住所、卒業
年度、電話、FAX、会への出
席の可否、実行委員等、ご協力
いただける分野を入力して送信
ください。(メールで返信出来
ない場合は、電話/FAX等で
ご連絡ください。)

池田 浩 隆
〒221-0843
横浜市神奈川区
横松ヶ丘33-4
TEL
045-290-1036
FAX
045-290-1034

●昭和四十年定時制卒

OSB会幹事長

谷中勝美

『今年の秋は紅葉見学へ』

昭和三十六年入学した時の一年B組の仲間で作った『OSB S会』の同窓会を今年もクラブツーリズムのツアーを利用して、十月十八日(日)に日帰りの秋の紅葉見物として開催し八名の参加者がありました。

谷川岳(迫力有る岩場と美しい紅葉・ロープウェイ) 三國峠 苗場 日本最長のロープウェイ ドラゴンドラ山頂駅: 田代山頂駅 湯沢と回って来ました。

また、来年も開催したいと思っています。

平成二十一年十一月一日記



21.10.18 天神平駅 1,318m撮影
三國峠ドライブと谷川岳・一の倉沢の旅

●昭和四十四年卒

森 茂

二つの太陽

オリオン座があざやかな季節である。視力検査として三連星とその下にある大星雲を確かめている内に、寒さを覚え、ちっぽけな自分に気がついた、という経験はないだろうか? ちつぽけだけれど、幸いに私たちもここまで生きてきました。

さて、「アラッ! もう還暦?」という訳で、一九六九年卒業生もアラ還であり、二〇一一年二月には、千葉高同窓会総会の当番学年として、皆さんのご出席をお願いする事務局を担当することに なります。

これまでの人生の中で一つの節目となる時であり、これからの人生(「老後?」)のスタートとなる時でもあります。

来し方を振り返る時、親に、友に、恩師に、家族・地域・社会に、深い感謝の念を覚えます。また、往く末を思う時、自分の身に蓄えられた知恵と力をどの

ように発揮するのか、という己を叱咤奮励するものが湧き上がります。

驚嘆と畏敬の念を持って二つの太陽を見、それぞれの持ち場で一隅を照らす努力を続けられるよう、ご健勝を祈ります。

「彼女は二つの太陽を見る。心の中の太陽と、天にかかる太陽とである。」

ゲーテ 「一隅を照らす 此れ則ち国の宝なり」 最澄

※第四回同期会は、二〇一一年二月五日(土)。同窓会総会と同日・同刻に開催します。奮ってご参集ください。(二〇〇九・十二・七記)

●昭和五十年卒

園部 創

昨年十月、第五十回東京葛城会の当番幹事として同会を開催。五十周年という節目の同窓会だったので、佐久間、鹿毛両君の健闘により記念誌を無事発行することができた。読み物として実に面白い、かなり良いものが出来上がった。二次会は我が学年のミニ同窓会となった。それでも東京近郊に在住の二十余名が集まり、大いに盛り上がった。仕事や家族のことは勿論、やはり健康が話題の中心となった。

我が学年の次回同窓会は三年後の開催。すでに同窓会エイジ化している我々には次の開催が待ち遠しくならず、最近では親しい者同士で会う回数も増えてきたように思う。

七年後に六十歳還暦幹事を務める千葉高同窓会の前哨戦として、今回の東京葛城会はいい経験になった。

●昭和五十一年卒

山崎 真

昭和五十一年卒同期では、会員相互の連絡の効率と連帯の密なるを期して、メンバーリストを立ち上げて数年になります。この間、リスト登録者は同期生全体の半分近くに迫り、毎年恒例となった十

一月第二土曜日の同窓会連絡の通信コストダウンはもちろん、悲しい弔事の素早い連絡等に威力を発揮しています。

今年の同期会は、これまた恒例となった東京神楽坂の居酒屋にて、約五十人の参加を得て開催されました。

互いの親睦を深め合い、励まし合いつつ杯を交わした、あっという間の四時間でした。後日、懇親の様子を写した写真がネット上にUPされ、再び心の温もりを感じる事ができました。

●昭和六十一年卒

増田 淳

卒業の年は寅年だった。80年代はジャパン・アズ・ナンバーワンの時代。自分の活躍がこの国を支える原動力となる…、そんな熱い想いを胸に進学、そして社会の前線へ散って行った。

夏も終わる頃、成田空港でK女史と20年ぶりに再会した。商社の総合職だった彼女も、退職して今や二児の母。来春には息

子が千葉中を受験するという。私はロンドンからの帰路、彼女は夫の赴任先のニューヨークへ。フライトの待ち時間、カクテルグラスを傾けながら昔話に花を咲かせた。「3年生の時、ブラザ合意があったよな。」「そうね。その後には円高とバブルが来て、一挙に崩壊したのね。」あれから24年、迷走し続ける社会の中で、卒業の年と同じ干支が再び巡ろうとしている。

支部だより

☆東京葛城会

会長 中村浩紹 (昭和二十九年卒)

東京葛城会五十周年を迎えて

明治時代に発足した「在京舊千葉中学生談親會」が嚆矢といえる東京葛城会は、「論談親議」をモットーとして西村光短氏・湯浅晃一氏(昭和六年卒)先輩ら

有志の呼びかけにより昭和三十五年に再興されて、昨年、五十周年を迎えました。誠に慶ばしかげりです。

会規を定めることもなく、ただ同じ学び舎・葛城台で学んだ者同士が世代を越えて交流と親睦を図り、母校の発展に寄与したいとの純粋な前向きな想いで毎年楽しい集いを伝承してきました。

西村房太郎元校長先生の命名により再生発足した当会は、会長として初代穴水徳五郎氏(大正十四年卒)、二代中村哲也氏(昭和十六年卒)、三代安藤勇二氏(昭和二十四年卒)を選任し年度幹事との協議により会の運営を続けてきました。

五十周年記念総会・懇親会は平成二十一年十月十五日、昭和六十年以来、恒例の会場である上野精養軒に、ご来賓として江崎俊夫学校長、吉野弘先生、霜同窓会長をお迎えして一三〇余名が集い、東京学芸大学大学院生竹山愛さん、稲生亜紗紀さん

による妙なるフルート演奏を聴きながら、賑やかに優雅な雰囲気のもとで開催されました。

担当幹事は、昭和五十年卒業の諸君で、代表の園部創くんの司会で午後六時三十分開会、会長挨拶、事務局報告(箕輪正美事務局長・昭和四十四年卒)、五十周年記念誌発刊報告(若梅弘郎君・昭和三十六年卒)と六十年もの間、在学時報道委員であった私が保管していた「千葉



「一高新聞」十八編の説明とその復刻作業についての報告（佐久間芳智君・昭和五十年卒）がなされました。

この「千葉一高新聞復刻版」は、当会の記念事業としてデータ化し、学校に寄贈するためその目録が会長より江崎学校長に贈呈されました。

ご来賓の祝辞を戴き、幹事川村きみ枝君（昭和四十四年卒）の発声で乾杯、宴の締め括りの校歌斉唱は、斎藤喜久三氏（昭和二十二年卒）のトランペット伴奏で、千葉中校歌を鈴木定雄氏（昭和二十五年卒）、千葉高校歌を宮崎勝弘君（昭和二十九年卒）がそれぞれ指揮を執り、鹿毛之君（昭和五十年卒）のエールのもとで会場が千葉中、千葉高の声



の渦に割れかえんばかりの熱気で包まれ、次年度幹事川添公貴君（昭和五十一年卒）に引き継がれました。

当日発刊された「東京葛城会五十周年記念誌」は、若梅君を編集長とした箕輪事務局長、藤原真由美君（昭和四十七年卒）、枝廣美穂子君（昭和四十七年卒）、鹿毛君、佐久間君ら編集

委員の献身的な尽力とワインカラーの映える表紙デザイン製作を提供してくれた平田敏行君（昭和四十二年卒）、そして一五〇余名の会員の皆さんから寄せられた浄財金寄付のご協力により会員にお届けすることができ、そして、編集協力願った新制千葉中学校生徒の皆さんにも配布させていただきました。

一三〇年の伝統をもつ我らが千葉中学校・千葉高等学校の一隅で灯し続けた五十年という東京葛城会の栄えある歴史を築き伝統されてきた先輩各位、ご支援をいただいた恩師と心の支えである母校への親しみと感謝を

込めて有難うと申し上げます。後輩各位には、これら母校への先人の想いを大切に伝えていただけるよう願うものです。

なお、この記念誌（A四版八〇頁）をご希望の方は、協賛金として金一〇〇〇円のご負担をお願いしますが、東京葛城会事務局 箕輪正美宛（TEL03-3578-1837・FAX03-3578-1839）にお申出ください。

第五十一回総会・懇親会は、平成二十一年十月二十一日（木）開催いたします。

☆千葉市役所葛城会

幹事長 中台公明
（昭和四十八年卒）

千葉市役所葛城会は、千葉市役所在職職員により構成されており、現在一一人の会員がおります。

毎年二月の中旬に総会を開催し、千葉高同窓会総会の報告の後、退職される先輩職員と新規採用職員の紹介などを行い同窓

の親睦を深めております。二〇〇九年は、二月十七日に開催し、五十二名が出席、新採職員から高校の近況や高校時代の部活動での活躍などの報告や、先輩職員の高校時代の思い出話などで大いに盛り上がりました。

中締めは、例年通り校歌（袖が浦辺の明けくれに）と戦歌（葛城健児いざやいざ）を熱唱し、楽しいひと時を過ごしました。今後も千葉高同窓会の一支部として、出来る限り千葉市役所葛城会を盛り上げていきたいと

考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

☆長生茂原葛城会

会長 永野 剛
（昭和二十六年卒）

平成二十一年十月三日（土）茂原市、一茂にて第五十三回支部総会を開催。東京葛城会が五十回とのことなので、地区同窓会では最古なのだろう。当会には

設立時(二十五名)からの出席者
自筆の参加者名簿がある。B五
版の安ノートだが、貴重な記録
として事務局で保管している。
既に四冊目になると思う。当地
区も母校の学区となつたが、長
いこと学区外であり会員は減り
こそすれ増えることは少なく、
仕事等で当地に來られた同窓生
には、直ぐ招待状を出すことに
している。この所、出席者は十
七、八名だが、今年は十三人と
些か寂しかった。併し、設立総
会から出席されている昭和十一
年卒・向井十郎、同二十年卒・
近藤和男両先輩を筆頭に、新し
く三十二年卒・西ヶ谷邦正、三
十九年卒・古川義夫両氏が加わ
り、阿佐幸雄事務局長さんも忙
しい処を遠路出席下さった。数
こそ少ないものの、皆意気盛ん
で、同窓会のあり方まで熱き議
論となり、大いに盛り上がり、
例年より一時間も長い会になつ
た。

最後は新旧校歌のみと端折つ
て、打ちあげとしたが、秋の夜

☆船橋葛城会

柳田典子
(昭和三十六年卒)

第三十一回船橋葛城会は今年
も五月末の日曜日に開催されま
した。

今回は、昭和四十七年卒の油
井宏子さんを講師にお招きして
「ミニ古文書口座」を開講致しま
した。油井宏子先生はNHK学
園や公民館等で古文書講座の講
師として活躍中です。

開講前の短い時間でしたが、
古文書の読み方から始まり、古
文書の魅力を丁寧にわかりやす
く解説して下さい、先生の楽し
い話術に皆さんすっかり惹きこ
まれてしまい、充実したひと時
を過ごすことができました。

当会でも「如何にして一人で
も多くの若い世代の方に参加し
ていただくか」ということが、
いつもながらの永遠のテーマで

す。同窓の先輩や後輩とのなご
やかな交流の中で得るものも多
く、本当に気楽で楽しい会であ
ることを皆さんに知っていただ
けたらと思います。それと共に
より一層の内容の充実を図るこ
とも必要と考えます。そしてま
た新しい会員の方との出合いが
あることを期待しています。

☆東金葛城会

幹事 岸本雅邦
(昭和三十九年卒)

第三十一回東金葛城会の総会
は平成二十一年四月四日東金の
割烹料亭志津本で開催されまし
た。当日はゴルフコンペも行い
丸一日同窓と遊び、語り、飲み、
楽しい一日を有意義に過ごす事
が出来ました。先輩には折にふ
れ新メンバーをご紹介いただき
新しい仲間も増えて充実した東
金葛城会になるよう頑張ってい
ます。会の現況ですが、本会の
木村卓会長(昭和三十一年卒)は
東金市教育長を退任後、地元東

金の偉人、関寛齋の生誕百八十
周年記念展の実行委員長を務
め、平成二十二年二月に開催さ
れる展示と講演にリーダーシッ
プを発揮されています。

☆成田葛城会

真鍋 溥
(昭和三十一年卒)

十月十七日(土)平成二十一年
度成田葛城会総会を、ひかたや
第二支店で行いました。今年も
佐倉葛城会にも声をかけ、又成
田在住ではないが参加希望者は
参加して頂く事になり、会員の
同級生や友人の参加を得、和や
かな会でした。来年も十月に開
催予定です。入会御希望の方は
連絡下さい。

成田市橋賀台一―一五―四
真鍋医院 真鍋溥

電話 〇四七六(二七)三五三五
FAX 〇四七六(二八)六四七七

☆養信会(市原支部)

会長 鈴木雅博

(昭和三十三年卒)

本会は、市原市のシンボルの自然の養老川と音信山の一字をとって命名され、歴代会長は、市原市長さんが就任されて、ご指導を頂いてきました。小出前会長の後を不肖私が引き継ぎ、会は四十五周年を迎え、同窓生も六〇〇名余の多士済々です。

市域が広いこともあり、同窓生の把握がなかなか難しかったのですが、一三〇周年版同窓会名簿の編集を機に、よりしっかりと新し名簿を整理することもできました。

当支部では、総会は不定期開催ですが、年末の幹事会(三十四・三十五年卒)で、来春総会を開催することとなり、より多くの、特に若い同窓生の参加を呼び掛けることといたしました。

葛城だより

◎平成二十一年度受章者

心からお祝い申し上げます。

瑞宝双光章 遠山寅雄(昭20)

瑞宝中綬章 長谷川 工(昭22)

瑞宝小綬章 山本義春(昭28)

瑞宝中綬章 荻野貴一(昭29)

旭日大綬章 白井日出男(昭32)

旭日中綬章 鹿島尚武(昭32)

瑞宝双光章 越川 年(昭32)

旭日双光章 鈴木国夫(昭32)

県知事表彰 田那村 宏(昭36)

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

佐瀬喜一(昭11) 22年1月11日

水谷利夫(昭14) 19年6月24日

川井忠則(昭19) 21年12月3日

牛島泰夫(昭34) 21年10月

◎寄付者

心からお礼申し上げます。

昭和二十年四卒同期会(禄寿会)

20,000円

昭和四十二年卒同期会

50,000円

佐瀬喜一(昭11)

90円切手を100枚

〈敬称略〉

●同窓会では、同期会や支部、個人からの寄付を受付けております。

ご寄付頂いた方には同窓会報・同窓会総会のご案内などを送らせて頂き、寄付者名を同窓会報やホームページに掲載いたします。(不掲載希望も可)なお、お振込みの節は、卒年とお名前を明記して下さいますようお願い致します。

●千葉銀行 長洲支店 普通

店番号: 005
口座No.: 3227188

●千葉興業銀行 千葉支店 普通

店番号: 1111
口座No.: 5519371

●京葉銀行 本町支店 普通

店番号: 411
口座No.: 9865501

●千葉信用金庫 都町支店 普通

店番号: 023
口座No.: 0702279

◆口座名義(4行全て同じです)

千葉県立千葉高等学校
同窓会会長 霜 禮次郎

●ゆうちょ銀行 振替口座No.

00140161336678

□座名: 千葉県立千葉高等学校

校同窓会

編集後記

人生何が起るかわからないもの。三十余年前の桜の季節、新生活への期待でわくわくしながらくぐった母校の門を、今度は別の立場でくぐることになるうとは。

あの頃過ごした学び舎は、今もほとんど変わらず迎えてくれる。多少疲れた感はあるが、それでもすつくと立っている。

これからもたくさん生徒達の思い出が刻まれていくであろうこの場所で、そのお手伝いができるのは嬉しいことなのだろう。今年もまた、やがて桜の季節はやってくる。

山田 英文(昭54)

今年も多くの原稿をありがとうございました。本校は四月に中高一貫三年目に入り、六学年が揃います。私も活気横溢する中一生を教えており、可愛い後輩達の将来に大いに期待しています。一方で、現役高校生達には、千葉高の悠然とした校風を良い形で中学生にも伝えてほしいと思います。

五木田 純(昭48)